

新潟市が推進する 生徒指導の取組

新潟市では、子ども一人一人が、社会の一員であることを自覚し、他社との望ましい関係を築き、高みを求めて「自立」する姿を目指します。そのためには、**めあてをもち、自己決定し、自主的に行動する「自律性」と互いに認め合い、支え合い、高め合う「社会性」**の育成が必要です。

そこで、子ども一人一人の成長を促すために、次のような生徒指導の取組を推進します。

子ども一人一人の成長を促す生徒指導

- ◎子どものよさを**多面的に理解**し、一人一人の子どもと教師との信頼関係を築く
- 全教育活動を通して、**すべての子ども**に「自律性」「社会性」を育成することを目指し、4つの視点から意図的・計画的な指導に取り組む
- 全教職員**が当事者意識をもち、組織的に取り組む

めあてをもち
自己決定し
自主的に行動する

自立

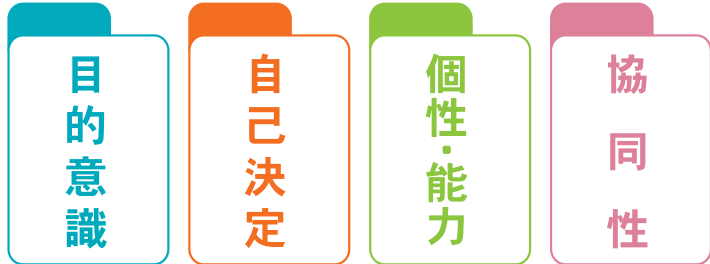
互いに
認め合い支え合い
高め合う

自律性

社会性

子どもを伸ばす4つの視点

信頼関係



児童生徒理解

子ども一人一人が、**夢や希望の実現に向けて常に目標を持ち、自ら判断・決定し、自分らしさを発揮し、人とかかわる**ことができるよう、4つの視点による活動を組織して、「目指す姿」の実現を目指します。

多面的な児童生徒理解に基づく信頼関係が基盤となります。

- 「4つの視点」については、4頁をご覧ください
- 日常の活動、日々の各教科等、学校行事等の特別活動における取組の【例】を右に示します

【成長を促す指導】すべての子どもを対象に

全教職員・チーム

いつでも、どこでも、どの子にも、**みんなでかかわろう**

学校・学級生活(日常の活動)で【例】

一人一人を大切に生かす

目的意識

- 一人一人の日々の取組を認め、次の目標を共に考える

自己決定

- 自分の行為を振り返り、今後どうすべきか考えさせ、決めたことを尊重する
- 目標の達成状況を振り返り、成就感・達成感を味わうことができるよう支援する

個性・能力

- 一人一人の存在感を確かにする教室環境をつくる
- 一人一人の活躍の場を保障する
- 集団に貢献できるように、一人一人の役割を明確にする

各教科等の授業で【例】

目的意識

- 学習の課題を分かりやすく示す
- 分かったこと、できたことを振り返る場面を設定する

自己決定

- 根拠を基に自分の考えをもち、自分なりに判断することを大切にする

個性・能力

- 個の興味・関心、能力に応じた教材、学習場面を工夫する

協同性

- 友達と協力して課題を解決する場を設定する
- 自分と違う考え方や見方を認め合いながら、よりよい結論を目指すことを大切にする



信頼関係

- 子どもをよくみる
- 子どもの話を聴く
- 子どもに寄り添う
- 子どもとかかわる
- 1日1回、笑顔で話し掛ける、名前を呼ぶ、ほめる
- いじめや差別につながる言動を見逃さない

〈多面的な理解〉
観察(表情)
コミュニケーション
保護者、
同僚からの情報
客観的データの蓄積

児童生徒理解



学校・学年・学級の風土、集団をつくる

目的意識

- 一人一人の思いや願いを基に集団の目標を設定し、その実現に向けた具体的な取組・活動の方向を示す

自己決定

- 集団の課題解決に向けて、自分がすべきこと、貢献できることを考えさせる
- 自分の意見をしっかりと述べ、他者の意見にも耳を傾け、よりよく判断する場や機会を保障する

協同性

- 互いのよさを認め合う場、頑張りや称え合う場、感謝し合う場を意図的に設定する
- 場面に応じて全員がリーダー、フォロワーの経験をできるようにする
- 人の役に立つ活動を通して、集団としての誇りを醸成する

特別活動で【例】

目的意識

- よりよい集団活動を展開するために一人一人がどうすべきか考えさせる
- 活動の達成状況、成果、課題を明らかにし、子どもと共有する

自己決定

- 様々な立場を理解したうえで、集団としてどう取り組むかの合意形成を図るようにする

個性・能力

- 一人一人の思いや願いを生かす創造的な活動を計画し、子どもが達成感を得られるよう支援する

協同性

- 異年齢でかかわる活動を設定する
- 一人では成し遂げることができない活動、互いのよさを認め合い、連帯感を高めるような活動を組織する

【予防的な指導】気になる変化の見られる子どもを対象に

- 欠席日数、日々の観察等から子どもの事実を速やかに的確に把握し、言動や内面の変化などが見られたら、早めの教育相談、家庭訪問等を実施する。
- 必要に応じて保護者やスクールカウンセラー等と連携し、具体的な未然防止策を組織的、継続的に講ずる。

【課題解決的な指導】課題のある子どもを対象に

- 事実確認、情報収集を正確に行い、校内対策委員会を中心に、具体的対応策を講ずる。
- 関係機関(警察、医療機関、教育相談センター、特別支援教育サポートセンター等)、SST・SSWと連携し、迅速に問題を解決する方策を講ずる。

